

令和7年度

授業シラバス・
年間指導計画

地歴・公民
(1年)

令和7年度 岡山県立倉敷天城高等学校 普通科1年 シラバス

教科名	科目名(校内名称)	単位数	教材
地歴	地理総合	2	<ul style="list-style-type: none"> ・「高等学校 地理総合—世界を学び、地域をつくる」(第一学習社) ・「新詳高等地図」(帝国書院) ・コネクト 地理総合(第一学習社) ・地理総合ノート(第一学習社)

学習のねらい	<p>地理学習において主体的・対話的で深い学びを実現するために、社会的諸事象の地理的な見方・考え方に根ざした追究の視点とそれを活かして解決すべき課題を設定し、その課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化が進み国際理解の必要性が増している現代において主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての重要な資質・能力を培う。</p>
--------	---

授業形態 アドバイス など	<p>授業形態は、各クラスでの一斉授業です。適宜、グループ学習やペアワークを取り入れていきます。定期的に課題を提出してもらいます。年に5回定期考査を実施する予定です。</p>
---------------------	---

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	<p>世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的にしらべまとめる技能を身に付けている。</p>	<p>地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。</p>	<p>地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。</p>
育てたい生徒像(資質・能力)との関連	<p>主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての重要な資質・能力。</p>	<p>社会的諸事象の地理的な見方・考え方に根ざして追究する力。</p>	<p>広い視野に立ち、世界の諸地域の課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む力。</p>
主な評価方法	<p>定期考査 観察 ペアワーク</p>	<p>定期考査 レポート 発表</p>	<p>ノートやレポートの記述 授業中の発言 生徒の自己評価と相互評価</p>

学期	学習内容	学習の到達目標		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	<p>第1編 地図や地理情報システムでとらえる現代世界</p> <p>1章 地図や地理情報システムと現代社会</p> <p>1節 球面上の世界と地図</p> <p>①目的地への行き方②地球上の位置③世界の時差④世界地図の見方・使い方⑤地図から読み取る情報⑥デジタル化された地図⑦地理情報システムの活用</p>	<p>・地理学習の基本的な技能として、地図の縮尺や方位に注意しながら、地図上の情報を読み解く有用性を理解する。</p> <p>・インターネットを使ってさまざまな Web 地図にアクセスし、日常的に使われている GNSS や GIS など、新しい地図表現の役割を理解する。</p>	<p>・地球上の位置をあらわすために緯度・経度が定められたことと、地軸の傾きによる季節変化と時差の存在を理解し、科書掲載の時差の計算のワークに積極的に取り組むことで、日本の標準時における諸外国の時間と生活のようすを想像することができる。</p>	<p>・地図を持たない人々の生活を想像し、地図の有用性に気づくことができる。</p> <p>・新聞広告や図書館の資料、インターネット検索などを用いて、身の回りの地図の活用事例について調べることができる。</p>
	<p>2節 国家の結びつきとグローバル化する社会</p> <p>①国家の領域と国境②日本の領域とさまざまな領土問題③国家をこえた結びつき④交通機関の発達と縮小する世界⑤情報・通信で一体化する世界⑥拡大する世界の貿易と物流⑦グローバル化と人の移動による結びつき</p>	<p>・国家とは何かを理解し、交通・通信の発達によって、生活、社会、産業、国家間の関係がどのように変化してきたかを理解する。</p> <p>・日本の領域と周辺国の領土問題にはどのようなものがあるか、理解する。</p>	<p>・単に交通・情報・通信手段の発達に目を向けるだけでなく、それらがどのように地域を結びつけ、変化させているかを地図から考えることができる。</p>	<p>・グローバル化の中で、人・「もの」・資本の国際間移動の複雑化や、国家的結びつきの変化に気づくことができる。</p>
	<p>第2編 国際理解と国際協力</p> <p>1章 生活文化の多様性と国際理解①世界の生活・文化を写真でつかもう②人々の生活に彩りを与える気候③「衣」から見る世界④「食」から見る世界⑤「住」から見る世界⑥暮らしを豊かにする産業⑦宗教と人々の暮らし⑧暮らしを楽しむための文化⑨多様性に富んだ世界の人々との共生</p>	<p>・世界の気候帯ごとに、どのような特徴があり、どのような生活が営まれているのかを学習する。</p> <p>・人々の生活様式の差異を通して、地理的環境が及ぼす影響について理解する。</p>	<p>・世界の自然環境は地域的に大きく異なることを、気候の面から判断することができる。</p> <p>・その地域の自然環境と、歴史や文化といった社会環境の影響を色濃く受けた世界の特色ある生活文化を、さまざまな衣食住の事例を通して学ぶ。</p>	<p>・図書館の本やインターネットから、世界の生活・文化を示した写真を探し、写真の中にある地理的環境を読み取り、世界は地理的環境の影響を受けた特徴ある景観で成り立っていることを学ぶことができる。</p>
後期	<p>2章 地球的課題と国際協力</p> <p>①持続可能な開発目標(SDGs)②地球的課題の地理的な側面③貧困問題④人口問題⑤食料問題⑥持続可能な水の利用⑦健康・福祉問題⑧教育・ジェンダー問題⑨技術革新と持続可能な産業⑩限りある資源⑪エネルギー問題⑫都市・居住問題⑬地球温暖化問題⑭陸地の環境問題⑮海洋の環境問題</p>	<p>・持続可能な開発目標(SDGs)の考え方を学び、地理で学習する地球的課題が教科をこえた探究的な課題につながることを理解する。</p> <p>・人口問題、食料問題、居住・都市問題、資源・エネルギー問題、地球環境問題といった具体的な事例を通して理解する。</p>	<p>・SDGs の達成に向け、さまざまな主体による国際協力の重要性を学び、消費者としての取組を通して、自らの行動を見直すことができる。</p>	<p>・各地球的課題について、地域性を踏まえて把握するとともにその問題の所在や解決の方向性を図書館やインターネットなどで調べ、話し合うことができる。</p>
	<p>3章 持続可能な地域づくりと私たち①地球規模で見る地形の姿と自然災害②人々の暮らしを取りまく自然環境③変動帯の自然と防災④湿潤地域の自然と防災⑤私たちができる災害への備え⑦地域調査の方法</p>	<p>・世界を大きく変動帯と安定大陸で分類し、多くの自然災害は変動帯で起きていることを理解する。</p> <p>・地域調査について、積極的な調査を実施できるよう、地域調査の必要性を理解し、地域調査の基本を身につける。</p>	<p>・自然災害の多い日本列島で、人々の生活に大きな影響を与える火山災害・水害・地震について、自然現象やこれまで受けてきた災害の歴史を理解するとともに、先人の知恵が詰まった、災害に備え、災害とともに暮らす生活について関心をもって考察する。</p>	<p>・自然災害に備えるためには、ハザードマップや緊急地震速報の有用性を認識するとともに、災害に強い地形や環境について理解し、災害に見舞われた際なるべく被害を減らせる(減災)できるよう、地域防災力を高めるために個々人ができることを積極的に話し合うことができる。</p>
備考				

令和7年度 岡山県立倉敷天城高等学校 理数科1年 シラバス

教科名	科目名 (校内名称)	単位数	教材
地歴	地理総合	1	・「高等学校 地理総合―世界を学び、地域をつくる」(第一学習社) ・「新詳高等地図」(帝国書院) ・コネクト 地理総合(第一学習社) ・地理総合ノート(第一学習社)

学習のねらい	<p>地理学習において主体的・対話的で深い学びを実現するために、社会的諸事象の地理的な見方・考え方に根ざした追究の視点とそれを活かして解決すべき課題を設定し、その課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化が進み国際理解の必要性が増している現代において主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての重要な資質・能力を培う。</p>
--------	---

授業形態 アドバイス など	<p>授業形態は、各クラスでの一斉授業です。適宜、グループ学習やペアワークを取り入れていきます。定期的に課題を提出してもらいます。年に5回定期考査を実施する予定です。</p>
---------------------	---

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	<p>世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的にしらべまとめる技能を身に付けている。</p>	<p>地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。</p>	<p>地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。</p>
育てたい生徒像 (資質・能力) との関連	<p>主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての重要な資質・能力。</p>	<p>社会的諸事象の地理的な見方・考え方に根ざして追究する力。</p>	<p>広い視野に立ち、世界の諸地域の課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む力。</p>
主な 評価方法	<p>定期考査 観察 ペアワーク</p>	<p>定期考査 レポート 発表</p>	<p>ノートやレポートの記述 授業中の発言 生徒の自己評価と相互評価</p>

学期	学習内容	学習の到達目標		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第1編 地図や地理情報システムでとらえる現代世界 1章 地図や地理情報システムと現代社会 1節 球面上の世界と地図 ①目的地への行き方②地球上の位置③世界の時差④世界地図の見方・使い方⑤地図から読み取る情報⑥デジタル化された地図⑦地理情報システムの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・地理学習の基本的な技能として、地図の縮尺や方位に注意しながら、地図上の情報を読み解く有用性を理解する。 ・インターネットを使ってさまざまな Web 地図にアクセスし、日常的に使われている GNSS や GIS など、新しい地図表現の役割を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地球上の位置をあらわすために緯度・経度が定められたこと、地軸の傾きによる季節変化と時差の存在を理解し、科書掲載の時差の計算のワークに積極的に取り組むことで、日本の標準時における諸外国の時間と生活のようすを想像することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図を持たない人々の生活を想像し、地図の有用性に気づくことができる。 ・新聞広告や図書館の資料、インターネット検索などを用いて、身の回りの地図の活用事例について調べることができる。
	2節 国家の結びつきとグローバル化する社会 ①国家の領域と国境②日本の領域とさまざまな領土問題③国家をこえた結びつき④交通機関の発達と縮小する世界⑤情報・通信で一体化する世界⑥拡大する世界の貿易と物流⑦グローバル化と人の移動による結びつき	<ul style="list-style-type: none"> ・国家とは何かを理解し、交通・通信の発達によって、生活、社会、産業、国家間の関係がどのように変化してきたかを理解する。 ・日本の領域と周辺国との領土問題にはどのようなものがあるか、理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単に交通・情報・通信手段の発達に目を向けるだけでなく、それらがどのように地域を結びつけ、変化させているかを地図から考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化の中で、人・「もの」・資本の国際間移動の複雑化や、国家的結びつきの変化に気づくことができる。
後期	第2編 国際理解と国際協力 1章 生活文化の多様性と国際理解①世界の生活・文化を写真でつかもう②人々の生活に彩りを与える気候③「衣」から見る世界④「食」から見る世界⑤「住」から見る世界⑥暮らしを豊かにする産業⑦宗教と人々の暮らし⑧暮らしを楽しむための文化⑨多様性に富んだ世界の人々との共生	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の気候帯ごとに、どのような特徴があり、どのような生活が営まれているのかを学習する。 ・人々の生活様式の差異を通して、地理的環境が及ぼす影響について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の自然環境は地域的に大きく異なることを、気候の面から判断することができる。 ・その地域の自然環境と、歴史や文化といった社会環境の影響を色濃く受けた世界の特色ある生活文化を、さまざまな衣食住の事例を通して学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の本やインターネットから、世界の生活・文化を示した写真を探し、写真の中にある地理的環境を読み取り、世界は地理的環境の影響を受けた特徴ある景観で成り立っていることを学ぶことができる。
備考				

令和7年度 岡山県立倉敷天城高等学校 普通科1年 シラバス

教科名	科目名 (校内名称)	単位数	教材
地理歴史科	歴史総合 (歴史総合)	2	教科書：高等学校 歴史総合[第一学習社]

学習のねらい	<p>(1)近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3)近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>
--------	--

授業形態 アドバイス など	<p>クラス単位での一斉授業になります。</p> <p>1時間の授業で、教科書2ページ分くらいを進みます。予習としては、必ず教科書を読んでおいてください。授業は教科書を自分で読んでいるという前提で進めていきます。歴史総合という科目は、世界的な部分と日本的な部分とで構成されています。世界的な部分は、中学校ではあまり学習していないので、しっかりと予習して授業に臨んでください。</p>
---------------------	---

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	<p>知識：近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。</p> <p>技能：諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p>	<p>近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p>	<p>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>
育てたい生徒像 (資質・能力) との関連	<p>平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての重要な資質・能力</p>	<p>社会的な諸事象を歴史的な見方・考え方に基づいて追究する力。</p>	<p>近現代の歴史の諸事象を主体的・多角的に理解しようとし、多様な文化を尊重する力。</p>
主な 評価方法	<p>定期考査 課題 観察 ペアワーク</p>	<p>定期考査 課題 レポート 発表</p>	<p>ノートやレポートの記述 授業中の発言 課題の取組状況 生徒の自己評価と相互評価</p>

学期	学習内容	学習の到達目標		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第1部 歴史の扉 ①歴史と私たち ②歴史の特質と資料	私たちの身近な地域などに見られる諸事象と歴史との関連、及び遺物、文書、画像などの資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解する。	私たちの生活や身近な地域に見られる諸事象と歴史との関連性と、資料から読み取った情報の意味や意義、特色などを考察し、表現する。	諸資料を活用し、課題を追及したり解決したりする活動に主体的に取り組む。
	第2部 近現代の世界と日本 第1章 近代化と私たち ①18世紀のアジアの繁栄 ②産業革命と市民革命 ③イギリスの繁栄と国民国家の拡大 ④アジア諸国の変貌と日本の開国 ⑤帝国主義の発展	・経済の発展、国民の政治参加、教育・移民などに関する資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。 ・産業革命と技術革新、日本の開国・立憲体制、帝国主義政策などを理解する。	・18～19世紀のアジア諸国と欧米諸国の関係に着目して、主題を設定し、考察し、表現する。 ・欧米諸国の産業革命・近代国家の形成・帝国主義政策などに着目して、主題を設定し、考察し、表現する。	諸資料を活用し、課題を追及したり解決したりする活動に主体的に取り組む。
後期	第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち ①第一次世界大戦と大衆社会 ②・経済危機と第二次世界大戦 ③第二次世界大戦の戦後処理 津新たな国際秩序の形成	・第一次世界大戦・大衆の政治参加、世界恐慌や第二次世界大戦の展開などを基に、国際協調体制の動揺・崩壊、戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。	・第一次世界大戦、経済危機、第二次世界大戦、戦後世界の形成などに着目して、主題を設定し、両大戦間の歴史について多面的・多角的に考察し、表現する。	・諸資料を活用し、課題を追及したり解決したりする活動に主体的に取り組む。
	第3章 グローバル化と私たち ①冷戦と脱植民地化・第三世界の台頭 ②国際秩序の変容と21世紀の世界 ③現代の課題	・冷戦の展開、日本の復興と高度経済成長、石油危機などを基に、グローバル化を理解する。 ・現代の世界および現代の日本がかかえる諸課題について、歴史的経緯を踏まえて理解する。	・冷戦の展開、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国の動向を比較したりして、国際政治の特徴と日本の役割・現代の諸課題などを多面的・多角的に考察し、表現する。	・諸資料を活用し、課題を追及したり解決したりする活動に主体的に取り組む。
	主題学習	自らの興味・関心に基づいて自ら課題を設定する技能を身に付ける。これまでの歴史総合の学習を踏まえて、現代的な諸課題について理解する。	・事象の背景や原因、結果や影響などに着目し、日本とその他の国や地域を比較したり、相互に関連付けたりして、主題について考察し、表現する。	・諸資料を活用し、課題を追及したり解決したりする活動に主体的に取り組む。
備考				

令和7年度 岡山県立倉敷天城高等学校 理数科1年 シラバス

教科名	科目名(校内名称)	単位数	教材
地理歴史科	歴史総合(歴史総合)	2	教科書: 高等学校 歴史総合[第一学習社]

学習のねらい	<p>(1)近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3)近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>
--------	--

授業形態 アドバイス など	<p>クラス単位での一斉授業になります。</p> <p>1時間の授業で、教科書2ページ分くらいを進みます。予習としては、必ず教科書を読んでおいてください。授業は教科書を自分で読んでいるという前提で進めていきます。歴史総合という科目は、世界史的な部分と日本史的な部分とで構成されています。世界史的な部分は、中学校ではあまり学習していないので、しっかりと予習して授業に臨んでください。</p>
---------------------	--

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	<p>知識: 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。</p> <p>技能: 諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p>	<p>近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p>	<p>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>
育てたい生徒像(資質・能力)との関連	<p>平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての重要な資質・能力</p>	<p>社会的な諸事象を歴史的な見方・考え方に基いて追究する力。</p>	<p>近現代の歴史の諸事象を主体的・多角的に理解しようとし、多様な文化を尊重する力。</p>
主な評価方法	<p>定期考査 課題 観察 ペアワーク</p>	<p>定期考査 課題 レポート 発表</p>	<p>ノートやレポートの記述 授業中の発言 課題の取組状況 生徒の自己評価と相互評価</p>

学期	学習内容	学習の到達目標		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第1部 歴史の扉 ①歴史と私たち ②歴史の特質と資料	私たちの身近な地域などに見られる諸事象と歴史との関連、及び遺物、文書、画像などの資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解する。	私たちの生活や身近な地域に見られる諸事象と歴史との関連性と、資料から読み取った情報の意味や意義、特色などを考察し、表現する。	諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。
	第2部 近現代の世界と日本 第1章 近代化と私たち ①18世紀のアジアの繁栄 ②産業革命と市民革命 ③イギリスの繁栄と国民国家の拡大 ④アジア諸国の変貌と日本の開国 ⑤帝国主義の発展	・経済の発展、国民の政治参加、教育・移民などに関する資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。 ・産業革命と技術革新、日本の開国・立憲体制、帝国主義政策などを理解する。	・18～19世紀のアジア諸国と欧米諸国の関係に着目して、主題を設定し、考察し、表現する。 ・欧米諸国の産業革命・近代国家の形成・帝国主義政策などに着目して、主題を設定し、考察し、表現する。	諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。
後期	第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち ①第一次世界大戦と大衆社会 ②・経済危機と第二次世界大戦 ③第二次世界大戦の戦後処理 津新たな国際秩序の形成	・第一次世界大戦・大衆の政治参加、世界恐慌や第二次世界大戦の展開などを基に、国際協調体制の動揺・崩壊、戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。	・第一次世界大戦、経済危機、第二次世界大戦、戦後世界の形成などに着目して、主題を設定し、両大戦間の歴史について多面的・多角的に考察し、表現する。	・諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。
	第3章 グローバル化と私たち ①冷戦と脱植民地化・第三世界の台頭 ②国際秩序の変容と21世紀の世界 ③現代の課題	・冷戦の展開、日本の復興と高度経済成長、石油危機などを基に、グローバル化を理解する。 ・現代の世界および現代の日本がかかえる諸課題について、歴史的経緯を踏まえて理解する。	・冷戦の展開、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国の動向を比較したりして、国際政治の特徴と日本の役割・現代の諸課題などを多面的・多角的に考察し、表現する。	・諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。
	主題学習	自らの興味・関心に基づいて自ら課題を設定する技能を身に付ける。これまでの歴史総合の学習を踏まえて、現代的な諸課題について理解する。	・事象の背景や原因、結果や影響などに着目し、日本とその他の国や地域を比較したり、相互に関連付けたりして、主題について考察し、表現する。	・諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。
備考				